

「日米同盟の深化」はிரらない 沖繩・辺野古に基地を押し付けるな4・16集会 呼びかけ文

(1) たび重なる閣僚の沖繩訪問—基地の強要は民主主義の破壊

今沖繩に対して大変な事態が起こっています。

この1ヶ月余の間に菅首相を始めとした主要な閣僚が6人も相次いで沖繩を訪問しています。口々に「普天間基地の危険性を除去するために、辺野古へ新基地を受け入れろ」とアメとムチの卑劣な方法で強力な圧力をかけています。

札東でひっぱたくように振興策をちらつかせながら、一方で地元自治体である名護市に対しては、米軍基地を受け入れないからと、米軍再編交付金を不支給として兵糧攻めの暴挙を行っています。

更に防衛省・沖繩防衛局は、環境アセスメント法をないがしろにする現況調査を名護市が拒否したことに対して、行政不服審査法に基づく異議申し立てを行うという更なる暴挙を行いました。

また辺野古新基地と一体で運用が計画されている北部訓練場がある東村・高江でもヘリパットの建設が強行されています。

これに対して、仲井眞知事をはじめ、県議会、名護市長、名護市議会などは、基地は県外へという声で一致しています。県民世論調査では、常に8割が辺野古への新基地建設反対の結果が示されています。

1つの県に対して国が首相を始め多くの閣僚が押しかけ、地元が反対する1つの政策を全力で押し付けようとしたことが、かつて在ったのでしょうか。地元の自治体が民主的手続きで決めたことを国の圧力でつぶすことは民主主義の破壊であり、異常な事態です。

(2) 日米同盟の深化は基地の押し付け

なぜこのような異常なことが起こっているのでしょうか？それはこの春（4月～5月）に菅首相が訪米し、日米首脳会談が行われ、そこで共通戦略目標を見直し日米同盟の深化を行い、新たな日米共同宣言を行おうとしているからです。

日米同盟の深化とは、「どこまでもついていきます下駄の雪」式に米軍の世界戦略により深く組み込まれ、米軍と積極的に一体となって世界中で侵略戦争ができるようにしよう、とりわけ「北朝鮮の脅威」や「中国の軍拡」を口実にして、より一層圧力を強めようというものです。

その1つの大きな柱が、建設の期限は設けないといいながらも、辺野古への新基地建設です。しかもその資金は全て日本側が負担することになっています。

「基地は国外に、最低でも県外に」という公約を掲げて政権交代したにもかかわらず、民主党政権は、真剣な対米交渉の努力もせずに、アメリカの恫喝に屈して、一年も経たないうちに公約と沖繩の民意に反して、新基地を辺野古に建設するという5・28日米合意を行いました。今回も民意を無視して、沖繩の頭越しに、日米同盟の深化という基地の押し付けを行おうとしています。

(3) 基地の押し付けは、沖繩差別だ

沖繩は戦後一貫して米軍基地が押し付けられてきました。これは沖繩返還を経ても変わらず、返還を契機に、地元の意向を無視してアメリカと基地の自由使用、核持込の密約まで交わして、より一層米軍基地が集中するようになりました。

仲井眞沖繩県知事は「日米安保は必要、抑止力は必要というのなら、日本全体で応分に負担すべきだ」といって知事に再選されました。もし菅政権がそれをできないならアメリカに基地はிரらないとはっきりすべきです。それをせずに沖繩の民意を無視して、沖繩に基地を押し付けるのは沖繩差別です。

仙谷前官房長官は、在任中自分の地元には受け入れられないけれど、沖繩・辺野古は基地を甘受してくれと暴言を吐きました。自分たちがいやなものを沖繩に押し付ける、しかも長期にわたって押し付ける、これが沖繩差別でなくてなんのでしょうか。

このような沖繩の現状に無自覚、無関心などにより政府の沖繩差別政策を許してきた本土の私たちには、大きな責任があります。差別をしてきた自覚と反省の上になつて、本土の私たちの責任で、沖繩と連帯し、辺野古への新基地建設をやめさせましょう。そのための首相の訪米、日米首脳会談に反対しましょう。

2011年2月7日

主催：辺野古への基地建設を許さない実行委員会

沖繩・辺野古に基地を押し付けるな4・16集会に参加・賛同します【個人 1000 円・団体 3000 円】

名前(団体名)

所属・役職・職業等

連絡先

電話・E-mail

●一言メッセージ

名前(団体名)公表【可・否】